

研究課題名	高度救命救急センターにおける治療の差し控え/中止と患者/遺族の転帰の関連
研究期間	2025 年 9 月 11 日 ～ 2027 年 3 月 31 日
研究の対象	2023 年 1 月 1 日～2024 年 12 月 31 日に広島大学病院救命救急センター（ECU, ICU）に入院し、センター内で死亡した症例
研究の目的・方法	救命救急センターで治療を受ける患者さんの中には集中治療の甲斐なく不可逆的病態に至る方もおられ、その場合は人工呼吸器、腎代替療法、機械的補助循環といった生命維持を継続することは延命と考えることができます。これに対し、当該患者の生命・死の質を高めることを考慮して、多職種で十分に議論した上で、治療を新たに開始することを差し控える（withhold）、またはすでに導入された治療を縮小・中止する（withdraw）ことが行われることがあります（withholding or withdrawal of life-sustaining therapy: WLST）。これには、心停止時の蘇生行為を差し控えること（do-not-attempt-resuscitation order: DNAR order）も含まれます。 一方で、本邦の救命救急センターで WLST がどのように議論、方針決定が成されているのかは十分に記述されていません。また、WLST の適切なタイミングは十分に検討されていません。すなわち、患者・家族に対して WLST が議論・決定されるタイミングが、患者の治療経過ならびにご遺族のその後の状況とどう関連するかは、十分に検討されていません。 本研究では、当院救命救急センターでの WLST の現状を記述し、その決定状況と患者・親族の転帰の関連について解析することを目的とします。 診療録ならびに診療上のフォローアップとして既存する情報（当該患者の遺族の悲嘆や心理的負担に関する情報：長期悲嘆 The prolonged grief-13 questionnaire [PG-13]、不安・抑うつ The hospital anxiety and depression scale [HADS]）を用いて解析を行います。
研究に用いる試料・情報の種類	情報：年齢、性別、ICU への入室経路、Rapid Resopnse System の関与、ICU 入室要因、主診療科、自殺企図の有無、背景情報 [APACHE2, Glasgow Coma Scale, 既往歴、ICU 入室中の Sequential Organ Failure Assessment (SOFA) score]、ICU でのイベント・治療内容（敗血症、急性呼吸窮迫症候群、腎代替療法、人工呼吸、気管切開、心肺蘇生、カテコラミン使用状況）、DNAR・WLST の記録 情報の管理責任者：広島大学大学院医系科学研究科 救急集中治療医学 教授 志馬伸朗

利用または提供を開始する予定日	2025 年 9 月 1 1 日（実施許可日以降）
個人情報の保護	得られた情報から氏名・生年月日・住所等の特定の個人を識別できる記述を削除し、代わりに新しく研究用の番号を付けて取り扱います。
外部への試料・情報の提供	ありません。
研究組織	本学の研究責任者 広島大学大学院医系科学研究科救急集中治療医学 教授 志馬伸朗
その他	特にありません。
研究への利用を辞退する場合の連絡先・お問合せ先	研究に情報が用いられることについて、研究の対象となる方の代諾者の方にご了承いただけない場合は、研究対象としませんので下記の連絡先までお申し出ください。お申し出による不利益が生じることはありません。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されている場合には、提供していただいた情報に基づくデータを結果から取り除くことが出来ない場合があります。 なお、公表される結果には、特定の個人が識別できる情報は含まれません。 また、本研究に関するご質問等あれば下記連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報等の保護や研究の独創性確保に支障がない範囲内で、研究計画書および関連書類を閲覧することができますので、お申し出ください。 広島大学大学院 医系科学研究科 救急集中治療医学 担当者：助教 石井潤貴 〒734-8551 広島県広島市南区霞 1-2-3 電話番号：082-257-5456